

森

の通信



自然と歴史の大発見
宮崎県総合博物館

Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

発行日/平成20年7月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

夏休み
特別企画

エントランスロビー展

「宮崎ミニ水族館」7月19日(土)～27日(日)
会場:本館1階エントランスロビー北側



観覧
無料



宮崎県は豊かな海「日向灘」に面し、岩礁、干潟、砂浜等のさまざまな海岸環境があります。また、県内を流れる河川にも上流から河口にかけてさまざまな環境があります。

宮崎ミニ水族館は、宮崎大学農学部、宮崎県立宮崎海洋高等学校の協力をいただき、エントランスロビー北側のスペースに水槽約20個を設置し、宮崎の川と海の生きものを生体展示する企画です。ミニ水

族館では、海の魚としてクロダイやキチヌ、ヒラメ等、干潟の生きものではトビハゼやヒモハゼ、シオマネキやチゴガニ等のカニ類、カワアイガイやヘナタリ等の貝類、また、河川の生きものとしてカワムツやヨシノボリ、ミナミテナガエビ、ヤマトヌマエビ等を展示・紹介します。また、日南海岸で採集した貝と名前調べのための資料を置いた「貝を探そうコーナー」も設けます。

夏休み期間中で水に親しむ季節でもあります。ぜひご家族で川と海の生きものを観察していただき、宮崎の水辺の生きものたちとその生息環境について知る機会としてください。



(アカメ幼魚)



(トラカサッパ)



(シオマネキ)



(ハゼの仲間)



(トビハゼ)



(貝を探そうコーナー)



(会場の様子 H18年)

写真の生きものは展示予定です。都合により変更する場合もあります。

お知らせ

休館日のお知らせ

通常は毎週火曜日が休館日ですが、夏休み中の休館日は機械メンテナンスによる8/19(火)のみです。

「採集作品の名前を調べる会」のご案内

夏休みに採集した植物・昆虫・貝・岩石・化石の名前を調べます。事前の申込みは不要です。

日時:8月24日(日)10:00～15:00

対象:小・中・高・一般 場所:本館情報室 定員:なし

展示会「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」(昭和館主催)のご案内

戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々の暮らしはどのようなものだったのか。実物資料を中心に、その姿を記録した写真や手記、映像を通じ、母や子の様々な思いや労苦、苦難の多かった暮らしを紹介します。

会期:9月20日(土)～9月28日(日)

観覧料:無 料



「出征兵士の見送り」
([日向写真帖 家族の款だけ歴史がある](日向市史別編))

あの頃も今も、鉄道はみんなの憧れ

昭和と鉄道展

昭和の旅は鉄道に乗って

2008年7月12日(土)～9月7日(日)

※会期中の休館日:7/15(火)、8/19(火)、9/2(火)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

※7/12(土)は午前10時～午後5時

会 場 宮崎県総合博物館 2階特別展示室

観覧料 大人 800円(600円) 小中高生 500円(400円)

※()は前売り、20名以上の団体
※身体障害者手帳、療育手帳、障害者
手帳をご持参された方は、ご本人と
介護者1名の方は無料



(夏の情景)



(就職列車)



(昭和30年代末の宮崎駅)



(D51)



(富士)



(宮崎軽便鉄道)

昭和30年代から50年代の高度成長の日本を支えたのは鉄道の発展でした。懐かしい駅前の街並みで当時の文化を体験でき、ジオラマで憧れの鉄道風景にふれながら、昭和をつくった

鉄道の歴史を楽しみ、学ぶ展覧会です。

展覧会では、石炭でSLかまたき体験、赤帽の荷かつぎ体験といった体験コーナーや、新幹線クイズ、鉄道一番クイズといったクイズコーナー、Bトレインショーティー組み立て教室などのイベントも盛りだくさんです。大人も子どもも楽しめる展覧会です。県内外のみなさんのお越しをお待ちしております。

動物
部門

講座紹介 「岬馬観察会」



5月11日(日)に、宮崎県串間市都井岬において国指定天然記念物の岬馬を観察する講座を実施しました。岬馬の歴史は、1697(元禄10)年、串間を治めていた高鍋藩が、軍馬や農耕馬を生産するために大規模な牧を設け、放牧したことが始まりです。現在、馬は人の手を離れ、再野生化した約110頭の馬社会を見ることができます。

講座講師として串間市教育委員会の秋田優さんを迎え、馬を目の前にしてその特徴を説明していただきました。観察会では今春生まれたばかりの子馬も見ることができ、秋田さんによる馬の行動の実況解説もあり、参加者は大いに満足していました。また、岬馬だけでなく、草原の植物や成り立ち、そこに生息する昆虫についても学習できる機会となりました。

名前だけはよく知っていた岬馬について、再認識できた1日でした。(末吉)

歴史
部門

収蔵資料紹介 「西南戦闘日記」

1877(明治10)年、もと会津藩士だった安田 栄が、官軍兵士として西南戦争に参戦したときに書き記した従軍日記です。同年3月、名古屋にいた安田の部隊は、陸路を行軍し京都へ向かいました。しばらく同地で天皇の警備についたあと、汽車で大阪へ移動しました。そこで部隊には、旧式(銃身の先から弾丸を込める先込式)のエンフィールド銃に替えて、新式(銃身の手元で弾丸を込める元込式)のスナイドル銃が配備されます。政府

地質
部門

宮崎の自然情報 かつての火山? 尾鈴山

尾鈴山を中心に溶結凝灰岩など(尾鈴山酸性岩類)が広く分布していますが、これは、約1400万年前の火砕流噴出を伴う巨大な火山活動と関連があります。溶結凝灰岩とは、大規模な火砕流堆積物が自重と熱で一部が溶融し固結した岩石のことで、冷えるときに柱状節理や板状節理などを生じます。含まれる黒曜石などのレンズ(長い年月で白く変色している)の向きは、火砕流の流れの向きと一致しています。このレンズの向きを研究者が詳細に調査した結果、現在の尾鈴山の位置に火口があったわけではなく、細島沖が噴出源であったことが判明しました。



写真は日向岬の柱状節理

今の尾鈴山の山体は、厚く火砕流が堆積した部分が、地殻変動や浸食で現在の姿になったのです。日向岬は柱状節理の美しい景観で有名ですが、レンズの向きを確認できる絶好の観察ポイントでもあります。(松田)

考古
部門

常設展示室紹介 ちょっと派手な縄文土器

2階の歴史展示室に入ると、直ぐ左手の大きなガラスケースの中に、宮崎県を代表する縄文土器20点ほどが年代の古い順番に並んでいます。四角い形の土器や円筒形の土器、底のとがった土器など比較的シンプルな形のものが多い中、ひときわ目立つプローションの大型の「深鉢型土器(大平式)」があります。キャプション(説明文)には「大平式土器」と書かれており、およそ4,000年前を表す赤いシールが付いています。この土

器は串間市の大平小学校の近くで50年以上も前に発見されたもので、石こうを使って復元されています。幅の広い口の部分にギザギザ模様の凹線が6~7条描かれています。模様はあまり派手ではありませんが宮崎の縄文土器の中ではプローションが派手な土器のひとつです。(永友)



植物
部門

博物館への問い合わせより 植えていないのに ユリが咲いた訳は?



植えた覚えがないのに庭に白いユリが咲いた。どうして? そんな経験のある方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。庭でなくても最近はお道ばたや野山でもよく見かけるようになったという方もいらっしゃるでしょう。その正体はタカサゴユリです。台湾原産のユリで、日本へは観賞用として大正時代に導入されたようです。タカサゴユリは非常に繁殖力の強い植物です。種子をよくつくり、風で各地に飛び散っていきます。早いものは発芽から2年目には花を咲かせるそうです。ユリは日本人に好まれるため、草刈りのときも残されます。そして調子にのって(?)各地に広がっていくのです。今では県内の各地で群落が見られるようになりました。花期は8月です。(齋藤)

声

展示解説員の声

歴史展示室の『戦国時代のコーナー』には、「耳川合戦図屏風」(京都市相国寺蔵)の写真パネルがあります。この屏風絵は、1578(天正6)年、高城川(小丸川)~耳川付近で太田氏と島津氏が合戦に及んだときのことを描いたものです。屏風絵の右下には「探意」という狩野派の絵師らしき人物の落款(署名と印)が見られますが、同派の系統図にその名前は確認できず未だ作者は謎のままです。ところで、屏風のあちこちに紅葉した植物が描かれており、合戦が秋に行われたことがわかります。また、母衣と呼ばれる背中を守る武具を装着した兵士の姿や、負け戦と悟った太田方の若武者が切腹前に心静かに笛を奏でる姿、左上部には扇で顔を隠した島津義弘ではないかと思われる武将の姿もみられます。その他にも、まだまだ見どころはあります。博物館へお越しの際はぜひ解説員にお声をかけてください。いつでも解説させていただきます。(岩崎)

